経済・金融フラッシュ

11月BOE金融政策委員会：量的緩和は3回目の増枠もペース・ダウンへ

経済調査部門　主任研究員　伊藤　さゆり
TEL:03-3512-1832　E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行（BOE）は4～5日に金融政策委員会（MPC）を開催、政策金利の0.5%での据え置きと中長期国債等の資産買い取り（量的緩和）枠を250億ポンド増枠し、2000億ポンドに引き上げることを決めた。量的緩和の拡大は3回目であり、いずれも四半期に一度の「インフレ報告」の公表月に実施されている。

今回の増枠の決定は「今後の回復も鈍く大幅な生産能力の余剰が続く（声明文）」との判断に基づくものである。

今回増枠された250億ポンドの買い取りは「今後3カ月かけて行なう」とされており、過去3カ月余りの半分程度にスローダウンする。増枠の停止に向けた地ならしの段階に入ると解釈することもできよう。

（　政策金利は据え置き、量的緩和を拡大　）

イングランド銀行（ＢＯＥ）は４～５日に金融政策委員会（ＭＰＣ）を開催し、政策金利を0.5%で据え置く一方（図表１）、今年３月に開始したＢＯＥの資金による中長期国債等を中心とする資産買い取り（量的緩和）枠の３度目の増枠を決めた。８月の引き上げ決定後の1750億ポンド分の買い取りは今回のMPCまでに完了することが明らかにされていたため、今回のMPCでは、増枠か停止かを決定することになっていた。過去２回の増枠は、５月、８月と四半期に一度の「インフレ報告」での見通しの修正に合わせて決定してきたが、今回の判断も11月17日公表予定の新たな「インフレ報告」が叩き台となっている。

リーマン・ショックで大きく落ち込んだ世界経済も底入れしつつあり、日本が４～６月期にプラス成長に転化したのに続き、米国も７～９月期はプラス成長となった。ユーロ圏の速報値は11月13日公表だが、３日に公表の欧州委員会の「秋季見通し」でも前期比0.5%の成長を見込むなど、プラス転化の可能性は高まっている。こうした中でイギリスは前期比マイナス0.4%で、マイナス成長は６四半期連続となるなど、景気回復の遅れが明確になっている（図表２）。

今回のMPCの決定に関する声明文によれば、増枠の決定のベースには「今後の景気とインフレ率には、金融緩和や景気対策、ポンド安という刺激効果の半面、銀行のバランスシート健全化や家計の過剰負債という下押し圧力が働くため、今後の回復も鈍く大幅な生産能力の余剰が続く」との見通しがあることがわかる。

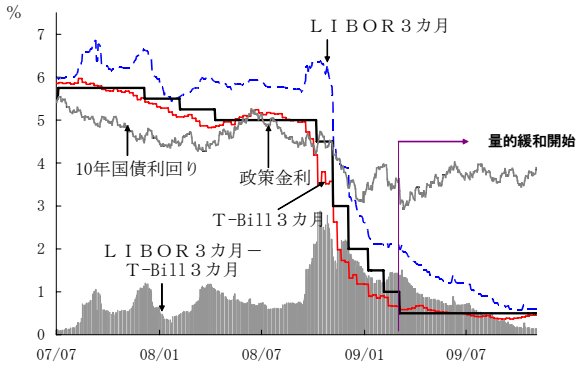
今回の増枠された250億ポンドの買い取りは「今後３カ月かけて行う」とされている。３月の量的緩和開始以降、７月中旬までは週平均で60億ポンド超、以後、10月末までは同約40億ポンド

Copyright ©2009 NLI Research Institute All rights reserved

というペースで買い取りが行なわれてきたが（図表３）、今後３カ月間はさらに同 20 億ポンド弱までペースを落とすことになる。次の「インフレ報告」の公表月にあたる２月の増枠停止に向けた地ならしの段階に入ると解釈することもできよう。

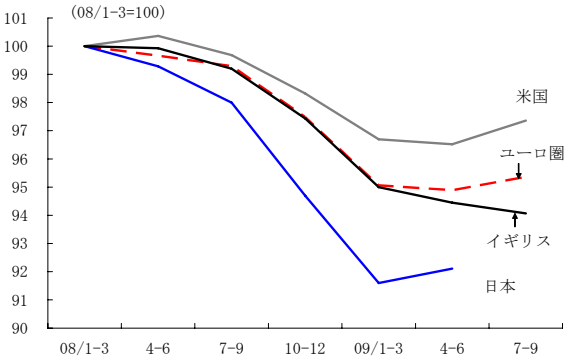
なお、今回の議事録は 11 月 18 日に公開予定である。

図表１　ＢＯＥの政策金利と長短金利



（資料)BOE

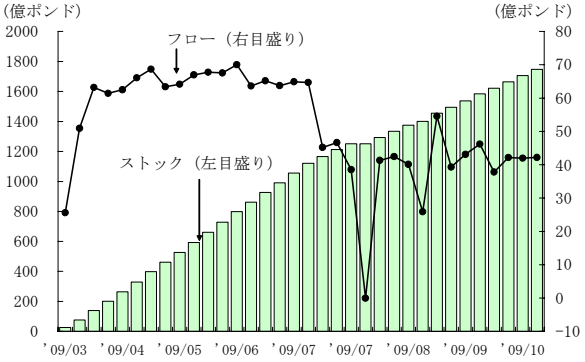
図表２　日米英欧の実質ＧＤＰ



（注）ユーロ圏の７～９月期は欧州委員会秋季見通しによる

（資料)各国統計

図表３　ＢＯＥによる資産買い入れ



（資料)BOE

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。